

ホール等文化施設のあり方に関する具体的な方向性
(中心拠点エリア)

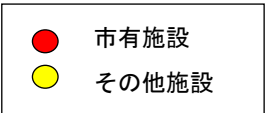
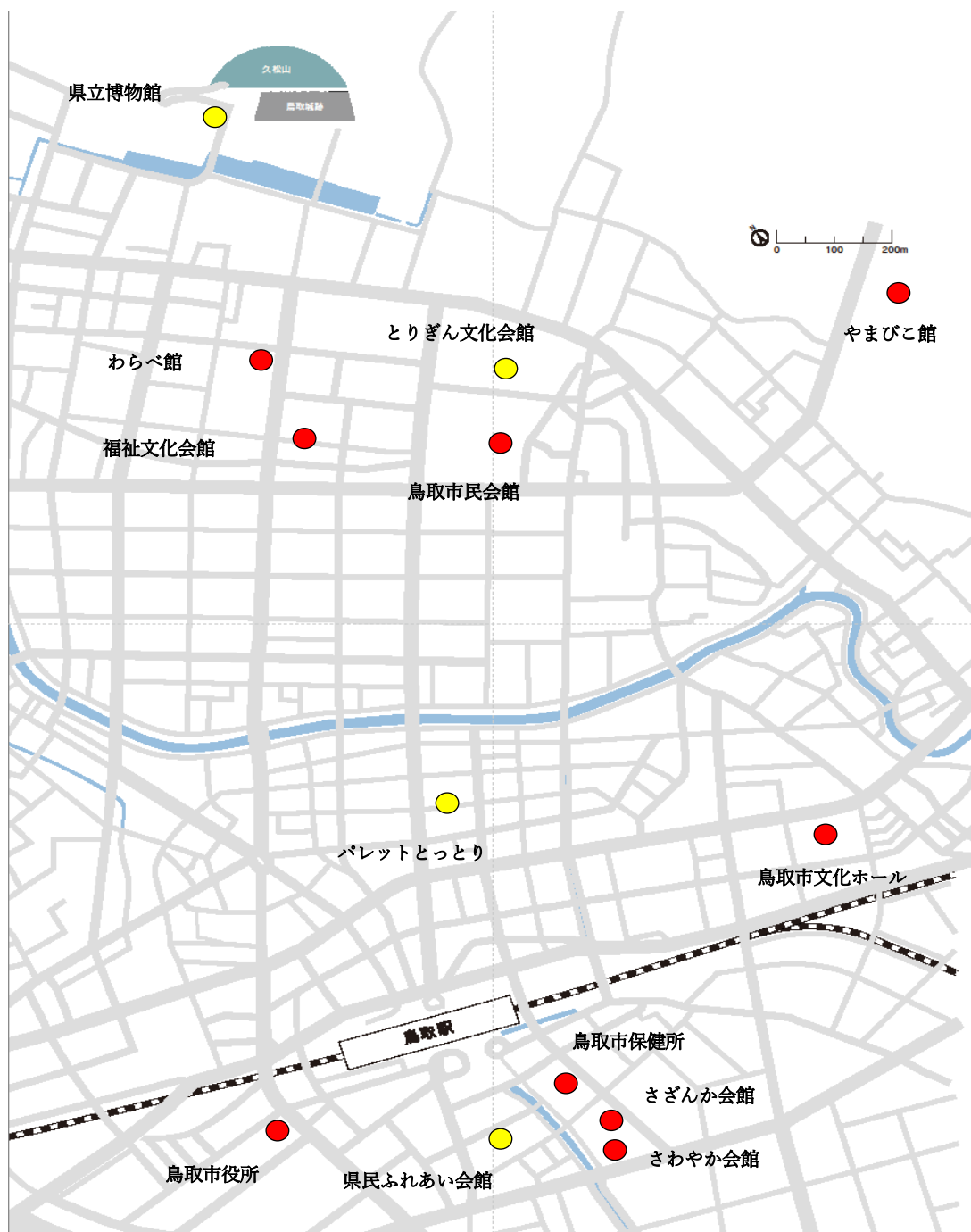
【案】

令和5年1月25日

ホール等文化施設のあり方に関する検討委員会

1 対象施設

「鳥取市公共施設再配置基本計画」において広域集会施設（ホール）として位置付けられている施設のうち、中心市街地周辺に立地し、貸館事業を主とする「市民会館」、「文化ホール」、「福祉文化会館」に加え、生涯学習施設の位置付けとなっているが文化ホールと一体的に管理運営されている「文化センター」を検討の対象とする。



2 現状・課題

(1) 建物設備・機能に関して

①建物設備

各施設とも、開館から40年～50年あまりが経過し、建物や舞台、空調といった設備の老朽化が進行しており、更新検討の時期を迎えている。耐震強度については、必要とされる基準を満たしていない施設もある。バリアフリー対策については、一定の取組がなされているものの、各施設とも構造上の限界があり、すべての課題を解決することはできない。このほか、防音設備の整った練習室の不足や、舞台搬入口の利便性の改善、利用者用駐車場の不足などが課題となっている。

②機能

市民会館大ホール、文化ホールとも講演、演劇、音楽など多目的に利用可能なホールとなっているものの、音楽専用ホールではないため、音楽関係者から、残響の改善や反響板の整備など、音響性能の向上についての要望がある。

市民会館は3階席まである固定式930席のホールのほか、大・小会議室、控室を備えているが、エレベーターが設置されていないほか、リハーサル・練習室も備えていない。また、ホワイエや各部屋の狭あいさ、大ホール利用時に全館貸出となることから他団体による部分利用ができなくなるなどが課題となっている。

文化ホールは、固定式約508席のホールに音楽用練習室や控室を備えているが、地下練習室への移動、ホール2階客席への移動経路は階段のみとなっている。

文化センターは、展示ホールや大・小会議室のほか、工作室、陶芸室、パソコン室、視聴覚ライブラリー、託児室などを備えている。

福祉文化会館は、現在、文化センターサテライトオフィスとして位置付けられており、大・小会議室、学習ルーム、調理室、託児室などを備えている。

■各施設の概要

施設名	開館時期	施設概要	敷地面積(m ²)	延床面積(m ²)	耐震強度(IS値)
市民会館	S42	ホール(930席)、大会議室、小会議室、控室兼会議室、控室3ほか ※平成21・22年度に耐震改修及び客席等の一部改修実施	4,137	3,672	0.68
文化センター	S57	以下の施設から構成 ①鳥取市生涯学習センター：大会議室、展示ホール、多目的室、会議室5、託児室 ②鳥取市こども科学館 科学館ギャラリー、展示スペース、工作室、陶芸室、パソコン室 ③鳥取市視聴覚ライブラリー ※令和元・2年度空調設備改修を実施	7,371 (文化ホール含む)	6,098 (文化ホール含む)	0.87
文化ホール	S55	ホール(508席)、練習室3、控室3ほか ※令和3・4年度、ホール天井の耐震改修実施	3,639	2,487	
福祉文化会館	S48	・会議室5 ・市文化センターサテライトオフィス：小	1,551	4,021	0.29

	研修室、研修室 3、学習ルーム、調理室、託児室			
--	-------------------------	--	--	--

(鳥取市調べ、市民会館・文化センターの延床面積について建物台帳参照)

■各施設の現況・課題

【令和4年12月末現在】

施設名	現状・課題	
	建物等	設備等
市民会館	<ul style="list-style-type: none"> ・地下床面劣化、及び屋上防水劣化により雨漏りが発生。 ・エレベーターは未設置。2階席、3階席、舞台袖への移動手段は階段のみ。 ・舞台及び舞台袖やホワイエが狭い。 ・駐車場が不足（61台うちハートフル4台）。 ・構造上、大ホールの使用時に他の団体が会議室等を使用することができない。 ・大型搬入車両は、国道から施設横まで長い距離を後進する必要あり。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大ホール及びホワイエの空調（冷凍機、ボイラーなど）、漏電防止のための遮断機、高圧変圧施設、非常用発電機、蓄電池設備、非常用放送設備が老朽化。 ※54年経過 ・空調は温度設定ができない。冷凍機は製造が終了したフロンガスを使用。 ・舞台の天井反射板変角装置、スクリーン、各種幕、吊物、平台、照明（照明操作卓以外）、スピーカーが老朽化。天井演出用スピーカーは、旧式のため、大音量を出すと故障のおそれあり。 ・舞台の床下は地盤沈下への対応としてジャッキアップしており、耐荷重に限度があるほか、床材の劣化への対応として過去2回研磨しており、これ以上の研磨ができない。 ・加圧給水ポンプがないため、水の安定供給ができない（地下タンクから自然落下圧により揚水ポンプで供給） ※54年経過 ・トイレの絶対数が不足（23基）。洋式化も未完了（14基が和式）。
文化センター	<ul style="list-style-type: none"> ・屋上防水劣化、外壁サッシシーリングの劣化により雨漏りが発生。 ・外壁が劣化。崩落のおそれあり。 ※過去に崩落あり ・正面入口ポーチと土間の磁器タイルなどが破損。 ・駐車場が不足（87台 第1駐車場31台うちハートフル3台、第2駐車場56台うちハートフル2台）。 ・駐輪場施設が劣化。 	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレの洋式化が未完了（21基中9基が和式）。 ・非常用発電機、エレベーターが老朽化。エレベーターは部品生産終了。
文化ホール	<ul style="list-style-type: none"> ・外壁が劣化。崩落のおそれあり。 ・エレベーターは未設置。地下1階練習室、2階席への移動手段は階段のみ。 ・舞台、舞台袖、ホワイエが狭い。 ・内外壁、床面（ステージ含む）等に亀裂あり。 	<ul style="list-style-type: none"> ・空調設備が老朽化。空調は温度設定ができない。冷凍機は製造終了したフロンガスを使用。 ・舞台照明設備が老朽化。照明操作卓のみデジタルに更新したものの、配電はアナログのままとなっている。調光装置は演出ごとに手作業による設定変更が必要なため、長時間の準備作業

	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣住民から騒音に関する苦情あり。 	<p>を要する。近年ではデジタル化が進んでいるため、主催者によっては使用方法が分からない。主催者が記録した舞台設定を、USB等の外部媒体により反映することができない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽屋とホールの空調設備が一体となっているため、冷暖房の単独利用ができない ・トイレの洋式化が未完了（20基中11基が和式）
福祉文化会館	<ul style="list-style-type: none"> ・耐震性能が満たされていないため、改修が必要。 ・外壁コーキングの劣化により雨漏りが発生。 ・外装が劣化（外壁コンクリート、塗装関係、屋上ペントハウス）。 ・内装が劣化（床リノシート、アスベスト含有タイル） 	<ul style="list-style-type: none"> ・非常用発電機、避難用誘導灯、エレベーター、高圧変圧施設が老朽化。エレベーター部品は供給終了。 ・トイレの洋式化が未完了（22基中18基が和式）

（鳥取市調べ 指定管理者への聴き取り）

（2）利用実態に関して

新型コロナウイルス感染症流行前における各施設の過去10年間の平均利用者数と傾向は、市民会館が約6.6万人、文化ホールが約4.8万人、文化センターが約5.9万人、福祉文化会館が約3.9万人でいずれも減少傾向となっている。

市民会館は、大小の会議、研修会、発表会、集会、式典、音楽興行など、幅広く利用されている。令和元年度のホールの稼働率は5割前後となっており、500人未満の催しが全体の約8割を占めている。一方で、プロモーターによるコンサートなどの興行や演劇鑑賞、学校関係行事など、観客数の多い催しにも利用されている。

文化ホールは、発表会、集会、式典などに利用されており、特に音楽系の利用が多い。このうち、令和元年度のホールの稼働率は5割前後となっており、このうち300人未満の催しが全体の約8割を占めている。また、練習室を付帯していることから、楽器、合唱練習の場としても定着しており、稼働率も約7割を超えている。

文化センターは、公的団体や市民活動団体等の事務所が入居するとともに、大小会議や作品展示などに利用されている。また、レーザー加工機、3次元プリンターなどの工作機械を備えた市民工房である「ファブラボ」や、児童生徒向けの各種教室・展示を行う「こども科学館」、幅広いジャンルの映像教材の貸し出しを行う「視聴覚ライブラリー」などを設けており、幅広い目的で利用されている。

福祉文化会館は、市民美術展をはじめ、文化的な展示などにも利用されていたが、近年は市関係団体などの事務所が入居するとともに、各種試験、会議、学習などに利用されている。

■各施設の利用人数

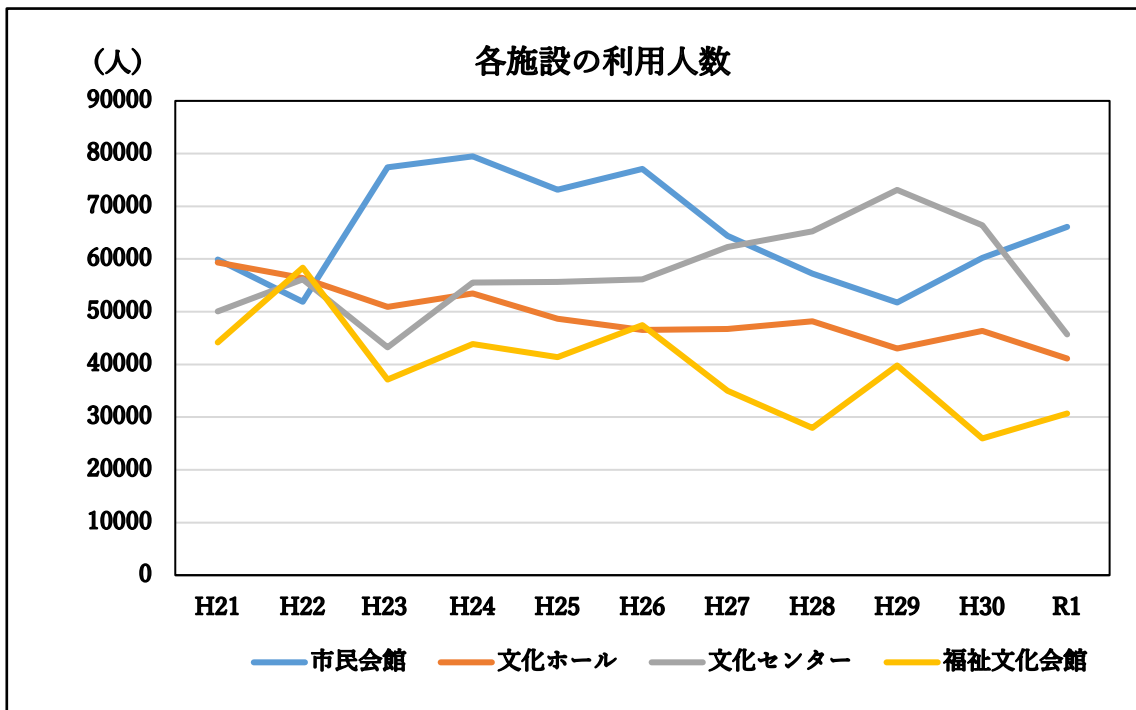
施設名	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
市民会館	51,899	77,411	79,475	73,171	77,077	64,420	57,257	51,745	60,210	66,074
文化ホール	56,391	50,885	53,489	48,645	46,567	46,693	48,163	42,985	46,346	41,109
文化センター	56,122	53,238	55,557	55,662	56,139	62,269	65,241	73,105	66,402	45,682
福祉文化会館	58,350	37,097	43,847	41,359	47,462	35,022	27,944	39,804	25,953	30,713

※福祉文化会館は教育福祉館のみの利用状況を記載

(鳥取市調べ)

※鳥取市民会館は平成21年度2月～平成22年度7月の期間については改修工事により休館

※文化センターの利用人数には、こども科学館及びファブラボとっとりも含む



■各施設の貸室稼働率

施設名	貸室名	H29	H30	R 1
市民会館	大ホール	49.2	51.6	55.9
	出演者控室 1	25.7	32.0	32.0
	出演者控室 2	20.4	26.6	27.4
	出演者控室 3	51.0	64.3	61.9
	大会議室	58.5	70.1	70.9
	小会議室	38.1	45.3	39.7
	控室	40.6	44.9	48.4
	ホワイエ	2.3	2.3	1.7
	文化サロン	1.8	2.5	0.5
文化ホール	ホール	52.9	53.1	43.3
	練習室 1	75.6	76.1	69.5
	練習室 2	73.9	70.9	69.8
	練習室 3	84.9	87.3	77.2
文化センター	会議室 1	70.7	67.1	47.8
	会議室 2	58.9	44.6	25.0
	会議室 3	79.9	81.1	61.7
	大会議室	49.4	51.5	47.2
	文化活動ブース	40.7	39.6	37.6
	託児室	28.8	30.1	20.3
	展示ホール	41.6	38.4	34.2
福祉文化会館	2 F 会議室	34.1	28.0	15.7
	3 F - 1 会議室	29.3	23.0	23.5
	3 F - 2 会議室	27.7	21.0	25.0
	3 F - 3 会議室	9.1	3.0	4.1
	4 F - 1 会議室	12.1	15.3	10.3
	4 F - 2 会議室	19.3	18.1	15.3

(鳥取市調べ)

(3) 経費負担に関して

各施設とも、建物・設備の経年劣化による破損、故障、不具合が多く発生している。設備に関しては、故障時において、年数の経過により必要な部品などが製造中止となっていることで、設備一式を更新せざるを得ないケースもある。

引き続き、各施設を活用していく場合、必要となる改修費として、市民会館で約4.5億円、文化ホールで約5.9億円、文化センターで約2.3億円、福祉文化会館で耐震改修などの大規模改修を除いても約2.6億円あまりが必要と試算されている。

また、各施設の管理運営（市負担部分）に係る年間経費として、令和元年度実績を参考とした場合、市民会館で約4,000万円、文化ホール・文化センターで約8,600万円、福祉文化会館で約1,300万円が必要になると見込まれ、3施設合わせると約1.4億円の負担が毎年発生することとなる。

■各施設の改修経費の試算

施設名	項目	金額(円)
市民会館	非常用蓄電池取替	2,052,600
	舞台照明調光器盤延命工事	28,380,000
	加圧給水ポンプ設置	6,380,000
	熱源機器更新	123,134,660
	舞台照明設備改修(照明卓以外)	100,518,000
	エアハンドリングユニット更新工事	102,784,000
	天井反射板変角装置巻上機更新	5,357,000
	スクリーン取替	2,783,000
	自動火災報知設備・非常用放送設備更新	4,818,000
	屋上防水工事(ロビー、玄関ホール、3階ホール入口)	20,502,856
	舞台吊物機構ワイヤロープほか更新	19,457,900
	舞台吊物機構幕更新	15,697,000
	非常用ディーゼル発電機更新	18,700,000
小計	450,565,016	
文化ホール	舞台音響設備更新	金額不明 ※音響卓は更新済み。一部アナログ音響となっておりデジタル音響対応の設備が必要。
	ホール空調設備更新 ※文化センターと同様、配管の劣化が想定されているため、熱源更新のみでは困難	160,000,000(概算) ※他の自治体の工事費参照 HPより『つくば市ノバホール参考』
	舞台照明設備の更新	75,900,000
	舞台吊物設備の更新	186,900,000
	舞台緞帳ほか取替え	金額不明 ※現在既存の緞帳及び袖幕等が劣化しており更新が必要。
	外壁改修工事	124,000,000(概算)
	外構タイル張り改修工事	41,000,000(概算)
	2階部分の耐震改修等	金額不明
	小計	587,800,000
	文化センター	屋上防水改修工事
外壁改修工事		119,000,000(概算)
屋上貯水槽更新		16,000,000(概算)
屋外駐輪場改修工事		5,000,000(概算)
エレベーター設備更新		26,500,000
非常用発電機設備更新		37,700,000
大会議室ワイヤレスマイク更新		1,000,000
小計		230,400,000

福祉文化会館	雨漏り修繕	31,823,000
	屋上高架水槽架台再塗装	2,200,000
	屋上膨張タンク架台再塗装	550,000
	全館コンクリート劣化補修	188,320,000
	屋上ペントハウス更新	5,500,000
	非常用自家発電設備取替工事	9,372,000
	1F ロビー誘導灯(LED型)更新	640,420
	昇降機(エレベーター)更新	19,360,000
	4階会議室床タイル張替修繕	1,694,000
	高圧変圧施設設備更新	1,043,900
	耐震補強工事	550,000,000
	小計	810,503,320
対象施設合計		2,079,268,336

(鳥取市調べ)

■各施設の指定管理料の推移

施設名	H26	H27	H28	H29	H30	R1
市民会館	37,897,000	37,713,000	38,482,000	38,694,000	39,117,528	40,995,000
文化ホール	— ※文化センターに含まれる					
文化センター	101,564,000	98,520,000	99,099,000	95,505,000	96,107,000	86,103,000
福祉文化会館	—					

※福祉文化会館は指定管理施設ではないため指定管理料なし。

(鳥取市調べ)

(4) まちづくりに関して

各施設ともコロナ前の過去10年間平均で年間約3.9万人から約6.5万人の利用があり、本市における文化芸術の振興や中心市街地への集客に寄与していることがうかがえる。一方で、貸館としての機能が主であるため、ホールイベントや会議などの開催件数によって利用者数も増減することから、周辺地域に恒常的な賑わいを創出するまでには至っていない。

人口減少・高齢化が進行していく中、文化関係団体等の会員数も減少傾向にあり、今後は各施設の利用者も一定程度減少していくことが見込まれる。このため、施設の集客維持や周辺地域の賑わい創出に加え、市有財産の有効活用、行政効率の向上などの観点からも、同様の機能を持つ施設について、一定の整理が必要となっている。

■鳥取市文化団体協議会の状況

	H26	H27	H28	H29	H30	R1
加盟団体数	72	72	70	67	67	67
会員数(人)	5,930	5,719	5,392	5,022	4,788	4,559

(鳥取市調べ)

(5) その他の文化施設に関して

県民文化会館は、開館から30年あまりが経過。固定式約2,000席の梨花ホールをはじめ、可動式約500席の小ホール、展示室、大・小会議室、リハーサル室などを完備。梨花ホールは、コンサートや演劇をはじめ、多彩な舞台構成に利用可能なホールとなっている。一方、小ホールは、主に講演会や研修会のほか、コンサートな

どもにも利用されている。なお、令和2年度には、耐震を含む梨花ホール・小ホールの改修が実施された。

県民ふれあい会館は、開館から40年あまりが経過。固定式487席のホールや大中小の研修室などを完備しており、講演会やフォーラムなど、主に会議や集会などに利用されている。

パレット市民交流ホールは、開館から15年あまりが経過。可動式200席の多目的ホールで、会議、講演会、イベント、作品展示などに利用されている。

県立博物館は、開館から50年あまりが経過。常設展示のほか、貸館部分として特別展示室や講堂、会議室などを完備している。令和7年度の県立美術館開館に伴い、美術部門（収蔵、調査研究、企画等）は県立美術館に移転する予定となっている。

わらべ館（鳥取世界おもちゃ館・県立童謡館）は、開館から25年あまりが経過。常設展示のほかに貸館部分として、イベントホールを完備しており、おもちゃに関するイベントや童謡唱歌を中心としたコンサートなどに利用されている。

なお、各施設とも利用者用駐車場の不足という共通の課題を抱えている。

■その他の施設の概要

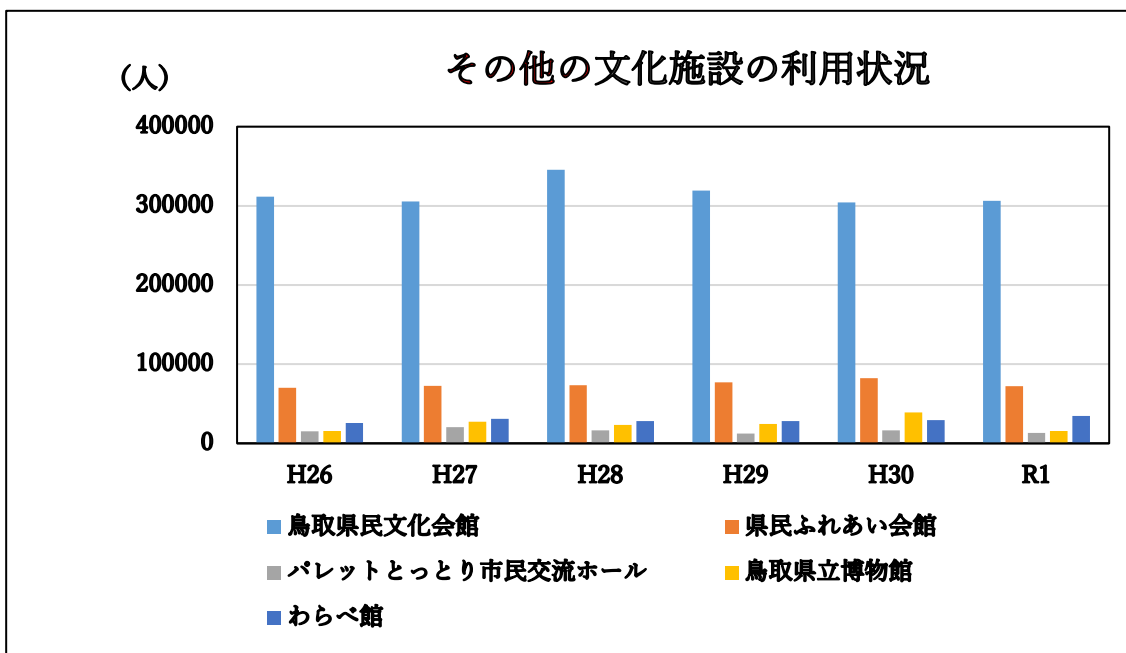
施設名	開館時期	施設概要	敷地面積 (㎡)	延床面積 (㎡)	所在地
県民文化会館	H5	大ホール（2000席）、小ホール（500席）、練習室4、会議室8、展示室294㎡ほか、駐車場334台、ハートフル9台	32,056	2,759	尚徳町 101番地5
県民ふれあい会館	S54	ホール（487席）、和室 研修室2、大研修室1、 中研修室5、小研修室 3、駐車場63台、ハート フル1台	4,271	本館棟 4,146 ホール棟 995	扇町21番 地
パレットとっとり市民 交流ホール	H17	ホール242㎡、調理室ほ か、駐車場14台、ハート フル1台	400	388	弥生町 323番地1
県立博物館 (貸館部分)	S47	展示室3、講堂、会議 室、駐車場21台、ハート フル1台	-	展示室1 515 展示室2 515 展示室3 374 講堂・会 議室 206	東町2丁 目124番 地
わらべ館いべんとほー る(貸館部分)	H7	ホール(可動式200 席)、駐車場72台、ハート フル3台	-	57.65	西町3丁 目202

(鳥取市調べ)

■その他の文化施設の利用状況

施設名	H26	H27	H28	H29	H30	R 1
県民文化会館	311,747	305,358	345,658	319,181	301,428	306,405
県民ふれあい会館	70,187	72,527	73,452	76,874	82,308	72,306
パレットとっとり市民交流ホール	15,209	20,546	16,415	12,310	16,570	13,100
県立博物館 (貸館の許可利用分)	15,734	27,306	23,431	24,476	38,964	15,418
わらべ館いべんとほーる (貸館部分)	25,547	30,967	28,237	28,307	29,241	34,717

(鳥取県民文化会館、県民ふれあい会館：鳥取県 HP (指定管理者制度導入施設の管理状況等の公表) より、
鳥取県立博物館：『鳥取県統計年鑑・県立博物館「鳥取県立博物館年報」』より、その他施設は鳥取市調べ)



3 現状・課題のまとめ

(1) 施設設備・機能に関して

- ▶ 対象4施設とも開館から40年～50年あまりが経過し、更新検討の時期を迎えている。建物、設備とも老朽化が進行し、特に、福祉文化会館は必要な耐震強度が極端に不足している。
- ▶ 対象4施設を合わせると、ホール（500席・900席）、各種会議スペース、練習室、展示スペース、団体活動スペースなどの機能がある。
- ▶ 対象4施設とも駐車場の不足、建物の狭あいさ、設備の古さ、バリアフリー対策の限界などが課題となっている。ホールに関しては、市民会館、文化ホールとも時代に合った音響性能の向上が求められている。
- ▶ 舞台装置や空調など、老朽化した設備関係のトラブルによる公演中の事故や主催者・観客に対する損害賠償などのリスクが高まっている。

(2) 経費負担に関して

- ▶ 現状のままで各施設を使い続ける場合、耐震改修や設備更新などに多額の経費を要することが見込まれる。
- ▶ 指定管理料についても、経年劣化の進行による修繕費の増などにより、これまで以上に負担が増加することが見込まれる。
- ▶ 多額の費用をかけて改修を実施した場合、建物自体は古いままであるため、将来的には建替が必要となり、結果として負担が大きくなることが見込まれる。

(3) 利用実態に関して

- ▶ 対象4施設の利用者数は、コロナ前の過去10年間平均で年間約3.9万人から約6.6万人となっており、いずれも減少傾向にある。
- ▶ ホールの稼働率は、市民会館、文化ホールとも5割前後となっている。このうち、市民会館では500人未満、文化ホールでは300人未満の催事がいずれも8割を占めている。
- ▶ 市民会館はプロモーターによる音楽公演や演劇鑑賞、学校行事など、観客数の多い催しに利用されている。
- ▶ 防音設備のある練習室を完備するのは文化ホールのみのため、稼働率は7割台と高くなっており、音楽系を中心に練習場所の不足が課題となっている。
- ▶ 文化センターは会議利用のほか、各種市民団体の拠点や活動の場として幅広く利用されている。

(4) まちづくりに関して

- ▶ 各施設とも一定の利用者数があるものの、貸館機能が主であり、催事の開催日・内容・規模などによる増減があるため、周辺地域の恒常的な賑わいを創出するまでには至っていないことがうかがえる。
- ▶ 人口減少・高齢化の進行を踏まえ、集客維持や市有財産の効果的・効率的活用などの面で一定の整理が必要となっている。

(5) その他の文化施設に関して

- ▶ ホールは、2,000席規模（県民文化会館梨花ホール）、500席規模（県民文化会館小ホール、県民ふれあい会館）、200席規模（パレットとっとり市民交流ホール、わらべ館）があるが、1,000席規模や、少人数の演者による生演奏の音楽利用に適した構造（200～300席規模）のホールはない。
- ▶ 展示室は、県立博物館、県民文化会館が完備するほか、パレットとっとり市民交流ホールも展示可能となっているが、鳥取市美術展規模（1,000㎡程度必要）の展示に対応可能な施設は、県立博物館のみとなっている。
- ▶ 令和7年度の県立美術館開館に伴い、美術部門（収蔵、調査研究、企画等）が倉吉市の県立美術館に移転することにより、県東部圏域においては、美術館機能を担う施設がなくなる。
- ▶ 各施設とも利用者用駐車場の不足という共通の課題を抱えている。